

2011年11月2日

(ご参考)

マツダ株式会社
2012年3月期 第2四半期決算説明会
(スピーチ要旨)

代表取締役会長 社長兼CEO

山内 孝

1. 総括

2012年3月期 第2四半期の営業利益は15億円と、急激な円高および原材料高騰の影響をオフセットし、営業黒字を達成いたしました。第2四半期累計では、売上高は9,592億円、営業損失216億円、当期純損失は399億円となりました。第2四半期のグローバル販売台数は、生産が回復した日本を筆頭に、全ての主要市場で第1四半期を大幅に上回り、32万3千台となりました。第2四半期累計では、第1四半期の震災影響もあり、対前年8%減の60万4千台となりました。

商品面では、SKYACTIV元年の今年、SKYACTIV-Gを搭載した新型デミオを、国内市場に投入いたしました。発売以降、非常に高い評価を受け、販売は好調です。

地域別の販売状況では、米国、メキシコ、オーストラリア、新興国では タイ、インドネシア、マレーシアなどのASEAN地域で好調な販売を継続しており、それぞれ、過去最高の販売台数またはシェアを獲得いたしました。

通期見通しは、大幅な円高、欧州金融不安、タイの洪水など不透明な環境ではありますが、通期営業利益ブレークイーブンを目指してまいります。第1四半期の震災影響等もあり、当期純損失は190億円の見込みとなります。下期は216億円の営業黒字および全ての利益レベルで黒字を目指してまいります。グローバル販売も第2四半期の好調を継続してまいります。通期販売台数見通しは、当初見通しを5千台上回る131万台の計画です。車種では、国内向け新型デミオに引き続いて、SKYACTIV技術搭載車をグローバルに導入してまいります。まず、新型Mazda3を日本、北米、オーストラリアへ導入いたしました。引き続き、来年初より、SKYACTIV技術を全面的に採用する新型CX-5をグローバルに順次導入いたします。新興国での能力拡大も順調に進んでいます。中国の南京工場では、9月から従来の生産能力16万台を24万台に増強いたしました。また、10月にはメキシコ新工場の建設を開始しました。

執行役員

古玉 尚

2. 2012年3月期 第2四半期累計実績

2012年3月期 第2四半期の連結営業利益は15億円となりました。主要通貨の円高影響および原材料高騰をコスト改善によりオフセットし、また震災影響による生産・販売減少からの回復により、黒字転換を達成しました。第2四半期累計では、連結営業損失216億円と、前年同期に対し338億円の減少となりました。この内訳については後ほどご説明します。

キャッシュ・フローは、85億円の黒字の営業キャッシュ・フローとなりました。今後さらなる運転資金の改善を図り、通期では黒字のフリー・キャッシュ・フローを目指してまいります。

グローバル販売台数は第2四半期で32万3千台となりました。第1四半期から第2四半期にかけて、全ての主要市場で台数を拡大し、4万2千台の増加となりました。第2四半期累計では、震災影響で前年より5万5千台減少の60万4千台です。また、出荷台数は47万台で、前年より8万台減少となりました。グローバル生産台数は、第2四半期で、ほぼ前年並みの32万6千台となっており、本格安定生産に回復しております。

為替レートは平均で 1ドル80円、1ユーロ114円と、前年に比べ、ドルで9円の円高となっています。

販売実績を主要市場ごとにご説明いたします。

まず日本ですが、販売台数は9万5千台、シェアは前年と同レベルの4.9%を維持しました。SKYACTIV技術搭載車の第1弾として、Zoom-Zoomな走りと、クラストップの低燃費 リッター30kmを実現したSKYACTIV-G搭載の新型デミオを、7月より本格導入いたしました。発売以降、非常に高い評価を受け販売は好調です。また、デミオに続くSKYACTIV技術搭載車の第2弾として、SKYACTIV-Gに加え、SKYACTIV-DRIVEを初搭載した新型アクセラを、9月下旬より導入いたしました。

米国では、Mazda2、CX-7などの好調な販売により、過去最高となるシェア2.0%を獲得しました。また、Mazda3は第2四半期で、前年より0.4ポイントアップのセグメントシェア5.8%を獲得しております。日系メーカーの中ではトップクラスの伸びを達成しました。また一方で、インセンティブを抑制し、ブランド価値向上の方針は継続しております。上期中に米国の在庫適正化を進め、下期からの、北米初となるSKYACTIV技術を搭載した新型Mazda3の導入に向けたマーケティング活動の強化を実施しています。メキシコでは、Mazda2を新規に導入したことや 好調なCX-7が販売増に貢献し、過去最高となる販売台数と過去最高のシェア3.3%を獲得しました。

欧州では、西欧が金融不安でノン・フリート市場の減少を受け前年比減となりましたが、ブランド価値向上施策の継続により、ドイツではMazda2とMazda3がJDパワー社の顧客満足度調査で第1位を受賞するなど、高い評価を得ています。ロシアでは、Mazda3やCX-7を中心に好調な販売を継続しており、前年比75%増の1万9千台の販売と、0.3ポイントアップの1.4%のシェアを獲得しています。

中国では、10万7千台の販売です。北京でのナンバープレート規制および金融引き締め等の影響もあり、前年比減となりましたが、Mazda3の販売好調は継続しています。さらに、Mazda3の拡販に向けて、新型Mazda3の南京工場での生産及び販売を開始しました。それに伴い、南京工場の年間生産能力を16万台から24万台に増強いたしました。店舗数は前期末から34店舗増加の346店舗と、販売網の強化も着実に進捗しています。今後も内陸部、沿岸部空白地域への出店を加速し、年末までに、当初計画を上回るスピードで380店舗に拡大する予定です。

その他市場では、全体で12万9千台の販売となりました。オーストラリアではMazda2、Mazda3などの主力車種が好調な販売を継続し、シェアは前年より0.2ポイントアップし過去最高となる8.6%を獲得しました。タイではMazda2、Mazda3の販売好調により、過去最高の販売台数を達成しました。シェアも前年より0.2ポイントアップし過去最高の5.1%を獲得しています。また、インドネシア、マレーシアで過去最高の販売台数およびシェアを獲得するなど、ASEANでの好調な販売を継続しています。AATでは、新型BT-50の生産を開始しました。

次に、連結営業利益の前年に対する減少額338億円の主な要因についてご説明いたします。

まず台数と車種構成では、第1四半期の震災影響による台数減等の影響もあり384億円の減少となりました。次に為替ですが、円高影響により USドルで75億円の悪化、ユーロで5億円の悪化、その他通貨の13億円の改善と合わせて67億円の悪化となりました。変動コスト領域では、原材料の高騰がありましたが、コスト改善によりオフセットし、54億円の改善となりました。また、その他固定費領域でも89億円の改善を達成しています。

3. 2012年3月期 通期見通し

2012年3月期 通期の連結財務見通しですが、円高、欧州金融不安、タイの洪水など不透明度が増す中ではありますが、通期営業利益ブレークイーブンに向けて努力してまいります。営業利益は対前年で238億円の減少、6月公表に対しては200億円の減少となります。それぞれの要因については、後ほどご説明いたします。下期は、全ての利益レベルで黒字を目指します。

グローバル販売台数は131万台と前年に対し3万7千台増加の見通しです。第2四半期の主要市場での好調な販売実績を反映し、6月公表に対して通期計画を5千台上方修正いたしました。上期から下期にかけては、生産・販売台数ともに大幅に拡大する見込みです。

為替の見通しは、下期でドル76円、ユーロ105円とした結果、通期でドル78円、ユーロ110円を想定しています。

下期の取り組みをご説明いたします。SKYACTIV元年の今期、国内向け新型デミオを第1弾とし、主要市場に、SKYACTIV技術搭載車を導入いたします。下期からは、新型Mazda3、新型CX-5の導入などにより、販売モメンタムを加速させていきます。また、SKYACTIV技術搭載車導入に伴い、インセンティブ抑制、残存価値向上等によるさらなるブランド価値の向上をグローバルに展開いたします。各マーケットの取り組みです。日本では、新型アクセラ導入に合わせた大型試乗キャンペーンを実施し、集客・成約率アップを図っていきます。さらに、宣伝強化、販売現場での売り方の改善を通じSKYACTIV技術搭載車を軸とした拡販活動を展開します。

北米では、SKYACTIV技術搭載の新型Mazda3、新型CX-5の導入成功とCX-7、CX-9などのSUVの販売好調を維持し、販売拡大を目指します。また、販売好調なメキシコの更なる販売機会を追求いたします。

続いて、欧州では販売好調なロシアでの販売をさらに拡大する取り組みを継続してまいります。

西欧諸国では、在庫の適正管理を徹底し、第4四半期に予定している SKYACTIV技術搭載の新型CX-5の導入成功に注力してまいります。また、来期以降の拡販に向けたSKYACTIV技術の浸透活動を強化します。

中国では、販売好調な新型Mazda3生産の現地化による拡販を図ってまいります。また、マーケティング活動の強化および販売網の拡大を推進いたします。

その他市場では、新型BT-50、新型Mazda3の導入による販売増加を図るとともに、販売好調なオーストラリアおよびASEAN市場での販売をさらに拡大させてまいります。

次に、連結営業利益の前年に対する減少額238億円の主な要因についてご説明いたします。

まず台数構成では、震災影響による台数減等の影響もあり124億円の減少となります。

次に為替ですが、円高影響により USDで196億円の悪化、ユーロで58億円の悪化、その他通貨の137億円の悪化と合わせて391億円の悪化です。変動コスト領域では、コスト改善により167億円の改善見込みです。また、その他固定費領域でも137億円の改善を計画しています。

続いて、6月公表からの連結営業利益の変動200億円の要因についてご説明いたします。

台数構成では、18億円の改善となります。次に為替ですが、為替前提を見直し、USDで150億円の悪化、ユーロで52億円の悪化、その他通貨で153億円の悪化、合わせて355億円の悪化となります。変動コスト領域では、コスト改善を41億円上乘せします。販売費用は23億円のプラス、また、その他固定費領域でも73億円の改善を計画しています。その他固定費領域でも73億円の改善を計画しています。

代表取締役会長 社長兼CEO

山内 孝

4. まとめ

当第2四半期では、主要通貨の円高および原材料高騰影響をオフセットし、営業黒字を達成する事ができました。グローバル販売台数も、第1四半期を大きく上回る32万3千台となりました。

商品面では、SKYACTIV元年の今年、SKYACTIV-Gを搭載した新型デミオを国内市場に投入いたしました。発売以降、非常に高い評価を受け販売は好調です。

地域別の販売状況では、米国、メキシコ、オーストラリア、新興国ではタイ、インドネシア、マレーシアなどのASEAN地域で好調な販売を継続しており、それぞれ、過去最高の販売台数またはシェアを獲得いたしました。

通期見通しは、大幅な円高、欧州金融不安、タイの洪水など不透明な環境ではありますが、通期営業利益ブレイクイーブンを目指してまいります。第1四半期の震災影響等もあり、当期純損失は190億円の見込みとなります。下期は216億円の営業黒字および全ての利益レベルで黒字を目指してまいります。グローバル販売も第2四半期の好調を継続してまいります。通期販売台数見通しは、当初見通しを5千台上回る131万台の計画です。車種では、国内向け新型デミオに引き続いて、SKYACTIV技術搭載車をグローバルに導入してまいります。まず、新型Mazda3を日本、北米、オーストラリアへ導入いたしました。引き続き、来年初より、新型CX-5をグローバルに順次導入いたします。

中国の南京工場では、9月に従来の生産能力16万台を24万台に増強し、10月にはメキシコ新工場の建設を開始しました。加えて、ASEANでの現地組み立て開始など、新興国での能力拡大は順調に進展しています。

5. 今後の取り組み

今年の8月以降、さらなる円高となり今後もこの円高傾向は続くと思われます。この円高による影響については、今まで以上のコスト構造の改革をすすめる事により克服したいと考えています。

短期的な対策は、台数、ミックスの改善および変動費、固定費などのコスト改善に着手し、成果をあげつつあります。

中長期では、今まで進めてまいりました、「モノ造り革新」をさらにスピードアップして成果を追求してまいります。既存車種のコスト改善はもとより、新世代車種まであらゆるコスト改善のネタを発掘し、実施してまいります。同時に、国内工場の生産性向上も引き続き進めていきます。

先ほど申し上げた南京工場での能力増強に加え、2014年3月期から稼動するメキシコ工場など、海外工場での能力拡大も順調に進んでいます。

新興国での取り組みも更に加速させていきます。まず、ASEANでは、AATを主軸としたマレーシア、ベトナムでの現地生産開始、タイ、インドネシアでは販売網強化などを今まで以上のスピードをもって取り組んでいきます。

さらに、メキシコ工場を活用した中南米ビジネスの強化を進めるとともに、今後、準備が整い次第NAFTAを活用した北米への輸出も検討してまいります。

来年度以降も順次、SKYACTIV技術搭載車をグローバルに展開してまいります。

日本のマーケットサマリーでもご説明いたしましたが、国内向けデミオは、成功裏に導入でき、環境面を含め高い評価をいただいています。

今後も、円高定着、欧州危機など、厳しい経営環境が続くと思われますが、反転攻勢に向けて予定通り、SKYACTIV技術搭載車は順次導入してまいります。

本日はお忙しい中ご参加いただき、誠にありがとうございました。